
クリスタル・プリンセス

月より

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスタル・プリンセス

【Nコード】

N1343E

【作者名】

月より

【あらすじ】

主人公・小学5年生、若狭結姫と夢に出てくるお姫様とのファンタジー作品。

|| || || 9000年前

|| || ||

「タチカ姫、ルミチ姫、ラクル姫、もう駄目です。地殻変動によりもう数時間で、このアトランティスは滅亡します」

「そうですか……。これだけ、文明が進んでも自然の力には逆らえないですね。もう数時間しかありませんが、残りの時間、家族の下にいておあげなさい。今まで、ありがとう」

「姫……。もったいないお言葉。ありがとうございます」

「ルミチ、ラクル、泣いてはだめですよ。まだ、希望を捨てちゃいけません」

「だって、もう」

「タチカお姉ちゃん、こわいよぉー」

「ルミチ、ラクル、私の最後のお話をよく聞きなさい。たしかに、もう数時間でこのアトランティスは滅亡します。歴史も私達も跡形も無く。ただし、私達の文明をこの王家に伝わるカチューシャで残すことができます」

「でも、それは……」

「わかっていきます。でもこの方法でしか、私達が生きてきた証を残すことが出来ません」

カチューシャを軽く押すと、20cmほどの小さな透明のパラソルが、ポンつと出てきた。

「ルミチ、ラクル、こちらに」

「はい」

「ラクル、もう泣かないで……。私もルミチお姉ちゃんも、ずっと一緒だよ」

「うん」

「それでは……。始めますよ」

タチカは、小さなパラソルを逆さに持ち自分に向けて開いた。すると、パラソルは手を離れ宙に浮き、3人の身体をまばゆい光で包み、足が宙に浮いた。

3人は身動きが取れなくなると、足の先から身体や着ている衣装も徐々に透明になりはじめた。

「なんだか、キラキラ輝いてきれいだね、おねえちゃん」

「もう胸のあたりまでクリスタルだね……」

「もうすぐ、顔も瞳も髪も……」

……。3人は透明なクリスタル像になった。さらにパラソルの先からは、赤・黄・青の光が3体のクリスタル像に放たれるとキラキラとそれぞれの色に輝きだした。

（お姉ちゃん、なんだかあったかいね）

（これで、これで、いいんだよね）

（いつか、このカチューシャを見つけてくれる方が、きっと……）

次の瞬間、パラソルが高速で回転し始めた。

……。ピキ……。ピキ……。ピキピキピキピキピシピシ……！

お姫様だったクリスタル像に、ヒビが入りだすと瞬く間に全体に広

学校から帰ると自分の部屋で、いつものようにカチューシャを軽く押し3色のパラソルにした。

「お姫様、これでいいのですか・・・」

結姫は、自分に向けてパラソルを開いた。するとパラソルは手から離れ宙に浮き、結姫の身体をまばゆい光で包み、足が宙に浮いた。身動きが取れなくなると、足の先から身体や着ている服も徐々に透明になりはじめた。

「い、いつもの感じが違うよぉ・・・。なんだか、パラソルに気持ち吸い込まれているみたい・・・」

すると、つま先からゆっくりと身体が透明になり始めると、パラソルの先から、緑色の光が放たれキラキラと緑色に輝きだした。

「きれい・・・エメラルドみたい・・・」

結姫は、腰のあたりまでエメラルド色になった身体を見て、自然と言葉にしていた。

ピキ・・・ピキ・・・ピキピキピキ・・・

パラソルが高速で回転しだすと、クリスタル化したつま先からヒビが入り崩れだし、パラソルの先に吸い込まれていった。そんな状況でも結姫は、結晶化した足がパラソルに吸い込まれる恐怖より、あまりの幻想的な美しさに見とれていた。

（お姫様、結姫は怖くないよ。だって、今まで夢の中でいつも笑顔

で見守ってくれていたから・・・)

結姫の頭の先までクリスタル化した頃には、腰の辺りまですでに結晶化して、パラソルに吸い込まれていた。

・・・ピキ・・・ピキ・・・ピキピキピキピキピシピシ！

突然、残されていた上半身の結姫のクリスタル化した身体が、金属音とともに弾け、緑の結晶となった。

結姫だった結晶がパラソルの先から吸い込まれると、パラソルの柄の方からは青色の結晶が光を放ちながら空気中に放出され、徐々に青色のクリスタル像が形成された。パラソルの回転が収まり、それまで放っていた光が完全に失うと、クリスタル像はタチカ姫になった。足元には赤・黄・みどりの3色パラソルが落ちていた。

「ここは・・・、外に出られたのね。結姫さん、ありがとうございます・・・」

タチカは、赤・黄・みどりの3色の小さなパラソルを手に取り、柄の部分を手でひねりながらひっぱると「ポン」と外れ、そこから、赤・黄・みどりの結晶が噴出し、それぞれクリスタル像を形成しはじめた。光を失うとクリスタル像は、ルミチ、ラクル、結姫に変わり、不思議そうな顔で立っていた。

「タチカお姉ちゃん、ルミチお姉ちゃん」

「よかったね」

「わぁー、夢に出てきたお姫様たちだぁー・・・」

「結姫さん、私はタチカと申します。こちらは、ルミチとラクルです。遙か昔、繁栄そして滅亡したアトランティス帝国の姫だったものです。あなたのおかげで私達は外に出てくることが出来ました。本当にありがとうございます。ただ、私達のこの身体はカチューシ

「ヤに何千年と留まった影響で、この世界では10分ほどしか留まることが出来ません。再び、カチユーシヤに戻るようになります。そこで結姫さん、お願いがあるのです。時々で結構ですから、こうして外に出してもらえないでしょうか？」

「いいよ 私も、お姫様に変身させてもらえてたんだし。でもでも、そんなこと言わずにこちらに長くいたらいいじゃないですか」

「タチカお姉さんも言ったけど、私達の身体は、この世界では・・・」

「私の、そう、結姫の身体を使ったらいいですよ 結姫とお姫様お二人が、カチユーシヤに入って、残ったお姫様が、パラソルで私に変わったら、この世界に長くいてられるでしょ。どう？結姫、えらいでしょ」

「えっ！？た、たしかにその方法だと長くこの世界にとどまる事が出来ますが、そんな・・・そこまでしてもらっては・・・ルミチは、どう思う？」

「結姫さんの私生活は幼稚園の頃から見てますので、人付き合いや知識は問題はありません。また、結城さんがカチユーシヤに入っても、身体はすぐに外の世界に出ることになりますので、私達のように身体に影響を及ぼすことはありませんけど・・・」

「ラクル、外で友達と遊びたい」

「それじゃ、決まりですね ではでは、私（結姫）とあと2人カチユーシヤは入る人決めてね。3人が外に出てきてから、もう7、8分ぐらい経つしね。とりあえず2日ぐらいしたら、また4人で会いましょう」

「結姫さん、本当に、本当にありがとうございます（涙）」

こうして、結姫と3人のお姫様は不思議なカチユーシヤと共に暮らすことになりました。

「タチカ姫、3人一緒だと、なんだかどきどきするね」
「結姫さん、タチカ姫でなく「タチカ」でいいですよ。もうすぐパラソルからの光が私達を包んで、身体がクリスタルになりますよ」
「結姫おねえちゃん、これからもお友達でいてね」
「うん、こちらからもよろしくね あっ、ルミチさん。外の世界、楽しんできてね！」

＝ ＝ ＝ その日の夜 ＝ ＝ ＝

「ゆうきー、晩御飯できたわよー」

「はい・・・お母さん」

「どうしたの、えらく大人しいじゃない。今日は結姫の好きな「肉じゃが」だよ」

「・・・」

「どうしたの？結姫、おなかでも痛いのか？涙、出てるわよ」

「・・・おいしい・・・ごはん、ごはん・・・とっても・・・お母さん、おいしいです（涙）」

（おわり）

<登場人物>

若狭結姫（11歳、みどり色）・・・お姫様たちと波長が合い、夢の中でふしぎな力チューシャをもらう。とても純粋な心を持つ、小学5年生。（名前は、夢幻伝説タカマガハラ全5巻（講談社・立川

恵)の主人公から取りました。「結ぶ姫」と言う名前が、この作品にぴったりだったので。このコミックも面白いので、よかったらご購入を)

タチカ・アトランティス(14歳、青色)・・・しつかり者のお姉さん。この子がカチューシャの使用を思いつかなければ、今頃、アトランティスとともに亡くなっていた。

ルミチ・アトランティス(11歳、黄色)・・・科学大好きな女の子。アトランティスでは科学分野の英才教育を受けていたので、結姫の世界での科学力は、ルミチにとって「おもちゃ」同様。結姫にアトランティスの科学を教えることで恩返しできればと思っている。

ラクル・アトランティス(8歳、赤色)・・・甘えん坊の女の子。年齢は結姫より3歳下も学力は、結姫の世界では「中学3年生」並み。

カチューシャ・・・アトランティスの科学の推移を集めた王族の宝具。故障は皆無。ルミチでもこのカチューシャは作ることが出来ない。カチューシャの の部分を軽く押すと、パラソルに変わるが、王族か王族と波長の合ったものでないと変わらない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1343e/>

クリスタル・プリンセス

2010年10月28日01時03分発行